

輝くねむろ

We Love Nemuro!

妻の真紀子さんが、漬物日本一を決める「T1グランプリ」の全国決勝大会で自身も捕っている根室産サンマを使用した「サンマの飯寿司」を出品し、個人部門で「東京タワー賞」を受賞し、自分のこのように受賞の喜びを話してくれたのは、漁師歴9年目を迎える菊地裕樹さんです。裕樹さんは、札幌でトラックの運転手として働いていましたが、漁師の家に生まれました。三人姉妹の長女の真紀子さんの立場を理解し、根室への移住を決意。25歳で義父が船主を務める北洋サケ・マス漁に乗船し、漁師としての人生を

スタートさせました。その時裕樹さんは慣れない漁の中、漁師という仕事がまさに命懸けであることを身にしみて感じたそうです。当初は慣れない地での生活に不安もあったそうですが、「この地域の方々は人情が厚く、本当によくしてもらっています。私が一人前の漁師になることが、地域の方への恩返し。これからも日々勉強です。」と、意気込みを話す裕樹さん。

今後も真紀子さんと「二人三脚」で、根室産の新鮮な魚を多く方にPRしてくれることでしょう。

profile 菊地裕樹さん

漁師（サンマ・昆布・秋サケなど）

1979年札幌市生まれ。平成15年11月に根室市へ移住。平成16年5月から漁師として働き始める。平成24年より歯舞保育所父母の会の副会長を務める。2児の父。趣味は現在13匹飼っている金魚の飼育。特技はバレーボール。



受賞の影に家族の支え



長谷川市長に特別賞の受賞報告をする菊地さん夫婦



90年代の後半になって、急激に日本のさまざまな子ども問題がクローズアップされました。そうした子どもにかかわる危機意識と新しい世紀への展望の中で、読書の持つ計り知れない価値を認め、国を挙げて、子どもたちの読書活動を支援する、2000年「子ども読書年」が定められ、官民合わせていろいろな取り組みがなされました。

そして、「子ども読書年」を契機に、翌年「子どもの読書活動の推進に関する法律」が制定されました。

これにより、国および地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、読書を通して子どもの健やかな成長をはぐくむ責務が、明示されました。根室市においても、図書館を中心に長年子どもの読書普及を図ってきましたが、一層の推進のため、今年度「根室市子ども読書活動推進計画」の策定作業を進めてきました。

その基礎資料として、市内児童生徒、保護者のみなさんにご協力をいただき、「アンケート調査」を実施しました。

そこから、根室の子どもたちは大分本好きで、保護者のみなさんは、読書の大切さを認めていることが明らかになりました。

新しい春とともに新年度から家庭・地域・学校・図書館などが連携・協力し、根室の子どもたちが読書を通じてより豊かな心と人生の英知を、未来を、はぐくむ「計画」が実施されます。

図書館

からの

おくりもの

奉仕主査 松永 伊知子
図書館 TEL (23) 5974番



「根室市子ども読書活動推進計画」